

あむーる

島根県立松江北高等学校
第3学年 八幡英語通信
2016年5月27日発行
第6号

先輩は語る <6>

No.6



北高生活を振り返って

東京大学文科III類 松本小夏

北高の皆さん、こんにちは。私が北高生のとき、「進路便り」の先輩方のお話が勉強に役立ったことを覚えているので、私も3年間を振り返り、少しでも皆さんの助けになるようなアドバイスを述べたいと思います。

まず私の学習方法、それは、3年間ほぼ同じペースでコツコツと勉強することでした。私はもともと頭の回転が速い方ではなく、友達がすぐに解ける問題も、時間がかかるタイプでした。ですからそれを補うためにもコンスタントに、他の人以上に勉強しました。「ウサギとカメ」のカメのタイプですね。また、文化部ですが3年8月まで部活動をし、同時に習い事もしていたので、勉強が十分にできず辛いときもありました。しかし大抵は、時間が限られる分 かえって密度の濃い勉強ができるというふうに割り切って考えていました。部活動と勉強の両立は確かに辛いですが、必然的に勉強時間に集中し、時間の使い方が上手くなるので、やりがいのあることだと思います。

さて、以上のように言うと、さぞかし苦しい3年間だったろうと思うかもしれませんが。しかし私は辛くありませんでした。勉強が楽しかったからです。毎日の授業は新しいこととの出会いで、古文の奥深さや、英語の素敵な表現など様々なものを発見しました。また、苦手な数学の問題も、考え抜いてやっと解けた！時の爽快感は嬉しいものです。皆さんも、勉強はやるだけ・解くだけと考えず、最大限楽しんでみて下さい。そして友達と、テレビの話だけでなく、その日習って心に残った漢文などの勉強の話もしてみてください。きっと、より前向きに学習に取り組めるはずですよ。

さてここで、具体的な勉強のアドバイスを述べたいと思います。

1. 模試・定期テストをしっかりと活用すること

模試は自分の弱点を補強する良い機会です。次の模試までに問題集をここまで終える、というように計画を立てるのがいいと思います。そして受け終わった模試は、いつでも復習できるよう、ファイルに整理すること。新しい問題集を買うなら、過去問を繰り返したほうが良いです。

2. 工夫すること！！

効率良い勉強を目指すうえで、とても大切です。例えば、空き時間を利用すること。私は、歯磨きしながら英単語暗記、通学中にリスニングなどしていました。他に、暗記物をカードにする、壁に貼る、歌にするなど工夫しましょう。また、長時間の勉強は能率が落ちるので、休憩や運動も大切だと思います。私は日曜日の朝の散歩が気分転換にかかせませんでした。

3. 規則正しい生活をする

私は基本的に良く寝ました。人によって違うと思いますが、私は遅くまで勉強するより十分に睡眠をとったほうが、授業に集中できたからです。

4. 自分はまだまだ！と思うこと

これは特に、今成績が良い人に言いたいことです。1回良い結果が出ても、油断をすると、次の結果は必ず悪いのです。私はこの波を何度も経験しました。これを避けるためには、常に自分はまだまだ！と思い、努力を続けるしかありません。

以上、いくつかアドバイスを述べましたが、最も大切なのは、自分なりの勉強スタイルを作ることです。いろいろ工夫した上で、自分に合ったスタイルを見つけて下さい。

最後になりましたが、北高の先生方、受験期には授業だけでなく、特別講座や何十人もの添削をして下さり、本当に大変だったと思います。感謝しています。ありがとうございました。では北高生の皆さん、自分の夢を実現するため日々努力を続けていってください。健闘を祈ります。★松本さんは私が4Rで担任した優秀な生徒でした。下線は八幡。

Long Time No See



Eの授業では、桐原書店の『システム英作文』（改訂版）を使っています。その4課に「お久しぶりですね」という英文和訳問題があり、そのガイドブックには「くだけた会話ではLong Time No Seeも可」として、解答集にも別解としてこれが示されています。私が大好きな『ロングマン英英辞典』にも"*spoken used humorously to say hello when you have not seen someone for a long time*"とありますから、ごく普通の記述と思われそうです。「英米とも親しい間柄ではよく使われる」（ジーニアス英和）という記述もあります。私も二年前まではそのような理解をしていました。

私は『日本経済新聞』を愛読しているのですが、その土曜日版には、不定期でデビッド・セイン先生の「ドンマイ！イングリッシュ」というコラムが連載されています。今から二年前の5月3日（土）付けの同欄には、次のような記事が掲載されました。そこには、私の知らないこの句のニュアンスについて書かれていました。どこにも書かれていない情報でした。

日本語の表現には英語にしにくいものがあります。「久しぶり」もそのひとつ。これにあたる表現としてLong time no see. という英訳があてられているのをよく見かけます。これでも通じないことはありませんが、気持ちがこもっていない社交辞令のように聞こえます。つまりこれでは「久しぶりに会った喜び」は表れていないのです。ネイティブはこの表現を単なる挨拶として、また時には皮肉にも使うことがあります。例えば数日間ずる休みをした同僚にLong time no see. などと言ったりもします。「おやおや、久しぶりですねー」と言ったニュアンスでしょうか。久しぶりに会えた喜びを伝えたいならHow have you been?という表現を使うといいでしょう。同じく、It's been a long time. という表現もよく使われます。大事なのはスマイルとうれしいという気持ちです。

早速、当時の本校ALTのジェーン先生（オーストラリア出身）と、この問題について議論しました。結論的には、ジェーン先生も上記の観察に同意されました。親しい友人に使うことはないだろう、とのことでした。以来、各所でこの表現について調べてきましたが、やはり使い方には注意が必要です。ネイティブはこの表現をあまり使いません。仲の良い友達とずっと会えなくてやっと会えた時に、Long time no seeを使う英語のネイティブは少ないでしょう。これは中国語の「好久不見」を直訳したビジン英語で、実は文法的にめちゃくちゃなので、口に出すと少し気取っている上、ユーモラスなイメージを与えてしまう恐れがあります。「久しぶり」を自然な英語で表したいなら、It's been a long time./It's been a while./It's been ages.などのフレーズが良いと思います。ロングマンの"*humorously*"という注記はそういうことを述べたものだったんですね。恐ろしや、『ロングマン英英辞典』（お薦めです）！

★八幡のサイト「チーム八ちゃん」はコチラ→ <https://teamhacchan.wordpress.com/>



